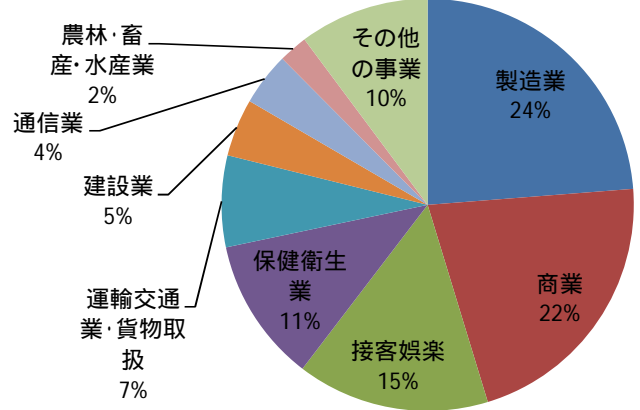


# 転倒労働災害を防止しましょう！

労働災害で最も多く発生している転倒災害（平成23年11月末現在では全国の休業4日以上災害97,030件中、約21%を占める）は、石川県内では製造業で最も多く、次いで**商業**、**接客娯楽業**、**保健衛生業**の順で多く発生しています。

今回、平成21年から平成23年11月末までに発生した商業、保健・衛生業、接客娯楽業での転倒災害190件について分析を行い、その結果をとりまとめました。

業種別（転倒災害190件の内訳）



作業内容では移動中が最も多く・原因別では4Sの徹底不足が目立ちます。

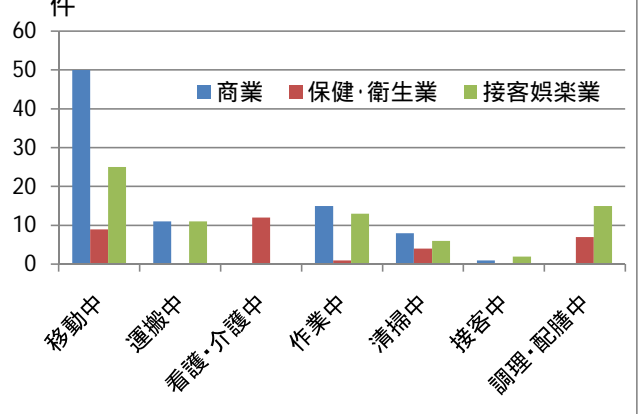
転倒時の作業内容別に分析したところ、最も多かったのが**移動中（44.2% 84件）**であり、中でも商業においては、全体の58.8% 50件が移動中に発生していました。

転倒の原因別では、**4s活動の徹底不足**によるものが**41.1% 78件**発生しており、特に商業においては、41.1% 35件となっていました。

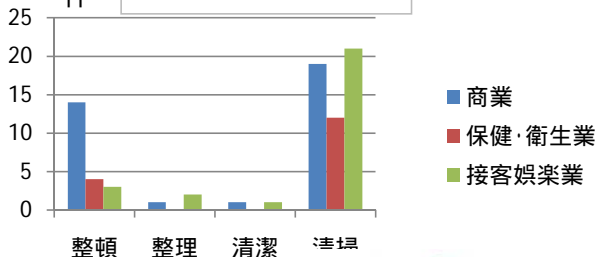
4Sの徹底不足以外の原因としては、足がもつれて・つまずいてが26.8% 51件となっています。

4S活動の中では、床が濡れたり汚れたりしている状態のまま放置していたが為に滑って転倒するという、**清掃の徹底**を行っていないために発生しているものが**27.4% 52件**となっています。

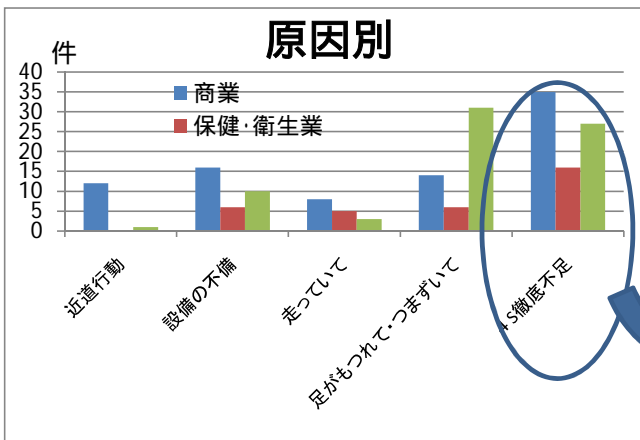
業種別・作業内容別



4S徹底不足の内訳



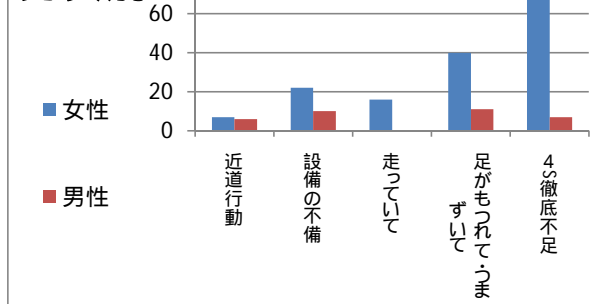
原因別



男女別では女性が8割を超える

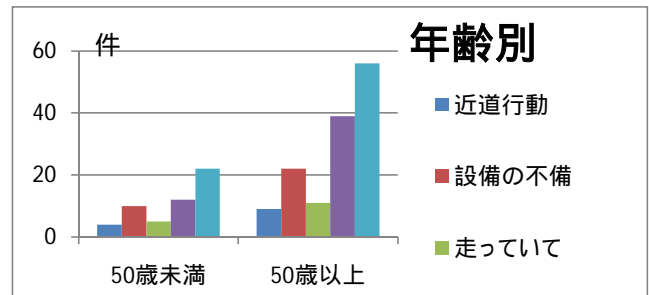
男女別では**女性が82%（156件）**を占めており、この内主な転倒原因は4Sの徹底不足（45.5% 71件）であった。また、**男性**の主な転倒原因は**足がもつれて・つまずいて**（32.4% 11件）でした。

男女別



## 年齢別では50歳代が突出

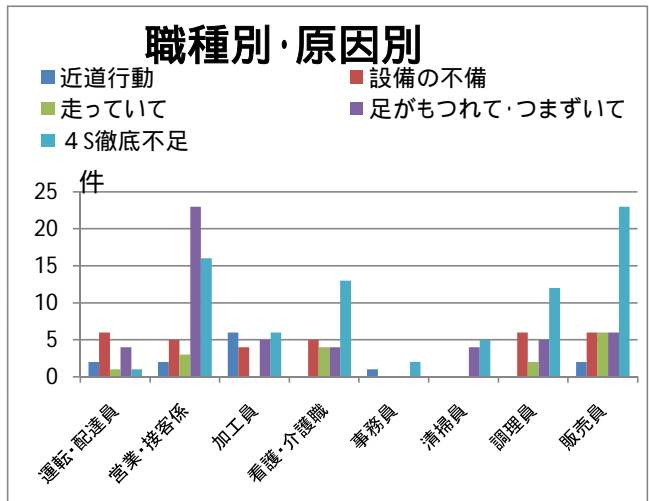
年齢別では、**50歳以上が72.1% 137件**を占めており、中でも**50歳代**については、40歳代の33件に比べて**2倍以上(71件)**発生していました。



## 職種別では営業・接客・販売員に多い

職種別では、**営業・接客係が最も多く**、接客中や商品を持っての移動中に発生しているものが多かった。

また、販売員については、店舗内の**移動中や清掃中**に発生しているものが多く、看護・介護職については、**看護、介護中**や濡れたり、汚れたりした箇所の**清掃中**に発生しているものが多かった。



## 転倒災害防止対策について

### 1 事業者が行う事項

- ・外部や浴室、炊事場等濡れた靴で出入りを行う**出入口付近にマットを敷き**、濡れた場合にすぐに清掃できるように**清掃具を備え付ける**こと。また、作業開始前および昼休憩前等、**定期的な清掃時間を設ける**こと。
- ・清掃直後は水やワックスで滑りやすいため、**乾くまで通行を禁止**すること。
- ・常時水を使う作業床に対しては、網目状のゴムマットなどを使用する等**水はけがよい状態を維持**し、作業を行わせること。
- ・通路、階段、出入口に**物を放置させない**ようにすること。特に繁忙期には、荷物を置くスペースがなくなるので、繁忙期を基準とした**倉庫スペースを確保**すること。
- ・上記を考慮した**4S活動を普及**させること。
- ・作業床や通路に段差をなくし、**滑りにくい構造**とすること。なお、作業工程上**段差やくぼみをなく**すことができない場合は、これを**目立つように周知**すること。
- ・労働者に対して、次の事項を指導・教育すること。

### 2 労働者が行う事項

- ・作業床や通路は濡れたり、汚れた状態で放置せず、**その都度清掃**を行うこと。
- ・日頃から運動に心がけ、**身体能力の維持向上**に努めること。特に50歳以上の高年齢者は、心身能力と行動に大きな不一致を生じる場合があり、転倒防止のための運動指導を受けることが望ましいこと。
- ・接客や荷物の運搬等を行う際は、**あせらずゆっくりと行動**することを心がけること。
- ・**滑りにくい靴を着用**するとともに、濡れたり滑りやすい場所では、**歩幅を普段より狭く**し、足の裏をつけた「**すり足**」を行うこと。